

公開講座を開催しました。

2015年7月4日（土）に大蔵暢氏（東京ミッドタウンクリニック・シニア医療部部長、トラスティック等々力院長）氏による「虚弱と老年症候群とチームアプローチ」の公開講座を開催しました。高齢者ケアの病院モデルから生活モデルへの転換を、ミシガン大学老年学センターの多職種連携の実際から、日本の有料老人ホームでの取り組みまで豊富な事例をまじえた講演でした。

生活の場での看取りは、最期までその人らしく安らかな終末を迎えることができ、またその看取りを見守る人々にも多くの示唆を与えることができるようです。例えば、高齢者と家族が年に一度行うアドバンス・プランニングを行うことで、自分たちにとって要介護状態の「生活の質」と「生命の量」の最適バランスを考えることができること。また、専門職のレクイエム・カンファレンスとして、高齢者が旅立たれた後しばらくしてから、その方々への良いケアを見直すことで、高齢者の尊厳ある人生と各専門職の役割を改めて振り返ることができる等。生活の場である施設での看取りをふまえた講演は、高齢者ケアの価値についても新しい視点を提供してくださいました。

専門職連携は、ミシガン大学の老年学センターでは多職種連携やカンファレンスが基本であり、各職種が対等な立場で患者中心の議論が行われているそうです。しかしながら日本ではまだそれが不十分であり、実践の言語化や論理的思考、及び根拠に基づく実践と利用者中心ケアの向上のためには、教育や実践現場でのトレーニングがまだまだ必要に思えました。

大蔵先生の著作「老年症候群の診察室：超高齢社会を生きる」（朝日選書）も合わせてご覧下さい。

